

病院外における心肺蘇生の経験

稲波脊椎・関節病院麻酔科 角田 健

昨年 12 月、通勤途中に心肺停止を起こした方に遭遇し心肺蘇生を行った。病院内における蘇生とはかなり異なる状況であったのでこの事例を報告する。通勤時、駅のホームに到着した列車より数名の手により人が運び出されて来るのに遭遇した。運び出してきた人の話の中に AED という言葉が聞こえたので近づいて様子を尋ねると車内で意識を失って倒れ心肺停止の状態ということであった。呼吸、脈拍を確認した後、心マッサージを行ったところ呼吸の回復は見られたが脈拍はまだ回復しなかったので継続して心マッサージを行った。AED が届いたので除細動を行うと脈拍も再開し、意識の回復は見られなかったが救急隊が到着したので申し送りをして引き渡した。その後の経過などは救急隊、搬送先の病院などから連絡があり、原因は冠動脈の閉塞、カテーテル治療・低体温療法などにより後遺症を残さずに回復、退院したとのことであった。病院内における蘇生の場合は先ず人手を集め分担して行うことが通常であるが、院外においては一般の人は知識があっても経験がないので動けない方が大部分であり、また実際に蘇生に踏み切れないことも多いのでほぼ一人で行うことになった。また実際には急を要しており人に指示して何かをやってもらう余裕もなかった。また、院内と異なり記録を行う人もいないため時間に関しても自分の記憶だけを頼りに申し送りを行った。通勤途中に心肺停止に遭遇し蘇生を行った。一般の人々にも心肺蘇生に関する知識などは普及しているが実際に遭遇した場合には動けない人が大多数である。知識・経験を有する者はこのような場では積極的にかかわる必要があると思われる。